



報道関係者各位

2026年7月02日  
トルコ共和国大使館 文化観光局

## 時間がゆっくりと流れる贅沢： 大人が豊かに出会う、トルコの最も美しい村々への「スロートラベル」



カレウチャウズ村（トルコ、アンタルヤ）

欧州旅行委員会（ETC）の[最新予測](#)によると、2026年は地域文化と深くつながる「スロートラベル」の支持率が26%（前年22%）へ上昇する見通しです。この新たな旅のトレンドの最前線として、現在、国連世界観光機関（UNWTO）がベスト・ツーリズム・ビレッジに認定した[トルコ共和国（以下、トルコ）の村々](#)が、次世代のデスティネーションとして大きな注目を集めています。これを受け、トルコ観光広報・開発庁（TGA）は、アナトリアの壮大な自然に抱かれ、独自のサステナブルな暮らしや伝統文化を守るバルバロスやアンタルヤの村々などを、日本の大人世代へ向けた新たな旅の形として提案しています。観光地を巡る旅から、ひとつの地域で精神的な充足感を得る旅へ。スロートラベルで知的好奇心を満たすトルコの「時間が優しく流れる4つの美しい村々」の魅力と最新情報をご紹介します。

### 1. バルバロス村：温かな「おもてなし」と麗しきエーゲ海の風土

エーゲ海沿岸の都市イズミルのウルラ地区に位置するバルバロスは、国連世界観光機関（UNWTO）の[「ベスト・ツーリズム・ビレッジ 2025」](#)に輝いた、700年以上の歴史を持つ静謐な村です。保存状態の良い石造りの家々、風情ある木製



のシャッターが並ぶ石畳の路地、伝統の織物や工芸を守る地元の女性たちの姿が、訪れる者の心を穏やかに解きほぐします。

この村のハイライトは、伝統的な「チャット・カプ（Çat Kapı：トントン、お邪魔します）」という、古き良きおもてなしの風習です。ドアに素朴な目印がある家では、旅人を温かく迎え入れ、近隣で採れた自家製のオリーブオイルや新鮮な野菜、ハーブを使った家庭料理が振る舞われます。手作りのカシ（凝固）チーズやパセリを包んで焼き上げた温かいパイ「カトメル」は、素朴な

ながらも忘れられない味わいです。

- **【2026年現地イベント】オユック・フェスティバル（毎年8月開催）** オユックは、日本語で案山子（カカシ）の意味。毎年9月には、村人が手作りしたユニークなカカシたちが通りを彩る伝統的なお祭りが開催されます。お祭り後もカカシたちは村の中にそのまま残され、バルバロス全体が一年中楽しめるオープンエアのアートギャラリーのようになります。イベントスケジュールやウルラ地方の歳時記は、[イズミル観光局公式ポータル「Visit İzmir」](#)にてご確認ください。
- **大人に嬉しい周辺の魅力「ウルラ・ワイン・ルート」**：村からわずか3kmの場所には、美しいブドウ畑が広がる「[ウルラ・ワイン・ルート](#)」があります。ここはミシュランガイドに掲載された名店がひしめくトルコ屈指の美食エリア。昼は洗練されたワイナリーや極上のディナーを楽しみ、夜は静かな村の隠れ家で寛ぐという、贅沢な2つの表情を堪能できます。

## 2. カレウチャウズ村：リビエラに歴史が溶け込むリゾート



トルコのリビエラとして名高いアンタルヤ地方からは、大人の知的好奇心を刺激する2つの村が世界観光機関の「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」に選ばれています。そのひとつが沿岸の美しい村、カレウチャウズです。中世の城跡がそびえ、「城の村」とも呼ばれるこの地では、狭い路地を抜けると家族経営の穏やかな食堂やアート工房、そしてターコイズブルーの美しい海が広がります。ここではボートをチャーターしてのプライベートクルーズや、世界的に有名なロングトレイル「[リキア・ウェイ](#)」の散策がおすすめです。周辺には、サンタクロースの起源である聖ニコラ

ウスゆかりの教会があるデムレや古代都市マイラの遺跡があり、深い歴史のロマンに浸ることができます。

## 3. オルマナ村：タウルス山脈に息づくサステナブルな名建築

同じくアンタルヤ地方のタウルス山脈イブラドゥ地区に佇むオルマナは、建築ファンをも唸らせる独自のサステナブル建築で知られる山の隠れ家です。

漆喰などのモルタルを使わず、石とスギだけで見事に組み上げた伝統建築「ボタンの家」が今も美しく残されています。木枠の部分がボタンのように見えることから「ボタンの家」と呼ばれ、トルコで最も持続可能な地方建築の例として有名



です。現在、これらの建物の多くが上質なブティックホテルとして再生されており、宿泊すること自体が「生きた文化遺産」に暮らすような極上の滞在となります。

- **【2026年現地イベント】ブドウ収穫祭（毎年9月開催）**

オルmanaはブドウの産地としてもよく知られています。毎年9月には、ブドウの収穫祭が開催され、伝統的なブドウ糖蜜（ベクメズ）作りなどを間近で見学できます。放牧された山羊のチーズやモリユ茸（アミガサタケ）といった豊かな料理を愉しめるほ

か、トルコ初で唯一の洞窟国立公園であるアルトゥンベシク洞窟国立公園のネイチャーツアー、絹織物「グラムク」の工房見学など、感性を満たすアクティビティが揃っています。各ツアーや地域の伝統文化の詳細は、[トルコ政府観光局「GoTürkiye」公式サイト](#) から最新情報を検索いただけます。

#### 4. アストゥル（Anıtlı）村：トゥル・アビディン地方で中世を旅する、本物の精神文化



[マルディン（Mardin）](#) のミディヤット（Midyat）地区に位置するアストゥルは、時が中世で止まったかのような静けさを残す、神秘的なスロートラベルの目的地です。蜂蜜色の美しい石造り建築が並び、何世紀にもわたりキリスト教徒とイスラム教徒のコミュニティが穏やかに共生してきた、深い歴史の厚みを感じられます。

村とその周辺は「ミディヤットおよび周辺の古代末期・中世の教会と修道院（トゥル・アビディン地方）」としてユネスコ世界遺産暫定リストに登録されています。西暦397年に創設された世界

最古のシリア正教の修道院「モル・ガブリエル修道院」は必見です。アストゥル村にある聖母マリア教会では、現在も15日ごとに厳かなミサが行われており、神聖な静寂に包まれた教会複合施設内での宿泊体験は、旅慣れた大人をも魅了します。

- **【2026年最大の注目トピック】**

- **第7回 マルディン・ビエンナーレ**

メソポタミアの歴史的遺産を舞台に、世界中から現代アートが集結する「第7回 マルディン・ビエンナーレ」が、今年『SKYground』をテーマに盛大に開催されました。数千年の歴史を持つ修道院や遺跡の中に、最先端の現代アートが美しく融合する瞬間は、今年この地を訪れる大人だけに許された極上の文化体験です。

- **五感で楽しむ食文化：**何世代にもわたり受け継がれてきた伝統技術で作られるワインや、スパイスとフルーツ、お肉を巧みに組み合わせた伝統的な[マルディン料理](#)は、洗練された大人の味覚を満足させてくれます。伝統工芸や映画祭、国際文化芸術祭など、知的好奇心を満たす文化イベントも豊富です。

有名な観光地を慌ただしく巡る旅から、ひとつの村にゆっくりと腰を据え、美しい自然と人々の営みに調和する旅へ。今年、トルコの最も美しい村々で「時間がゆっくりと流れる、本物の贅沢」を体験してみませんか。

#### トルコについて

トルコはアジアとヨーロッパを結ぶ要所として、何世紀にもわたり文化的な交流と多様性の拠点と考えられてきました。多様な文明が反映された歴史、遺跡、自然や美食を有し、多目的なデスティネーションです。伝統とモダンが融合した芸術や

ファッションをはじめ、ダイナミックなショッピングやエンターテインメントライフによって世界中から訪れる人々を魅了し続けています。2025年には全世界から過去最高の約6,400万人の観光客が訪れました。2023年にトルコ共和国として建国100周年、2024年には日本との外交関係樹立100周年を迎えました。

トルコの詳細は公式ウェブサイト (<https://goturkiye.jp/>) または以下のSNSをご覧ください。

Facebook: <https://www.facebook.com/GoTurkiye.jp>

X(Twitter): [https://twitter.com/GoTurkiye\\_jp](https://twitter.com/GoTurkiye_jp)

Instagram: [https://www.instagram.com/goturkiye\\_jp/](https://www.instagram.com/goturkiye_jp/)

YouTube: <https://www.youtube.com/c/tourismturkeyjp>

### **トルコ観光広報・開発庁 (TGA) について**

トルコ観光広報・開発庁 (TGA) は、国内外の観光市場においてのトルコのブランディングを確立させ、観光やビジネスにとって魅力的な渡航地としての認知を高めるため、文化観光省が定めた観光戦略や政策に基づき、あらゆるプロモーション、マーケティング、コミュニケーション活動を行っています。世界各地の現在の観光機会を促進・販売するとともに、観光の潜在的分野を発見・改善・確立していきます。

<本リリースに関するお問い合わせ>

トルコ共和国大使館 文化観光局 広報代理店

キャンドルウィック株式会社 (杉田、大村)

Email: [t-turkiye@candlewick.co.jp](mailto:t-turkiye@candlewick.co.jp)

Tel: 03-6261-6050 Fax: 03-6261-6051